

# 引用文献

1. シューベルトの歌曲は1840-50年に、367曲がベランジェのフランス訳語により紹介される。Furits Noske、*French Song from BERLIOZ to DUPARC*、Translated by Rita Benton、p. 26-27、Dover Publications, Inc. New York、1970.
  2. メンデルスゾーンの歌曲は「3つの曲集」として1846、48と49年に、シューマンの歌曲は1855年に歌手のストックハウゼンにより紹介される。Furits Noske、*French Song from BERLIOZ to DUPARC*、同上記載、p. 27.
  3. 下山進「ヴェルリオーズの歌曲一夏の夜」、43-53頁、千葉敬愛短期大学紀要、No.19、1997.
  4. ラヴェルの「フォーレの歌曲」について音楽雑誌Ⅲ、第2巻、215頁 (*Les mélodies de Gabriel Fauré*, La revue musical Ⅲ、No.2 -p. 215、Oct.、1922) に掲載される。NORMAN SUCKLING、*FAURÉ*、p.50、GREENWOOD PRESS、1979.
- ・譜例および詩例は、*GOUNOD*、Choix de mélodies 1、フランス歌曲研究会編、監修・校訂-荻原英彦、訳詩-高橋英郎、全音楽譜出版社、1986.

# 参考文献

1. *Charles Gounod*、AUTOBIOGRAPHICAL REMINISCENCES, With family letters and notes on music、Translated by W. HELY HUTCHINSON、DA CAPO PRESS、NEW YORK、1970.
2. エ・ルテール、「フランス歌曲とドイツ歌曲」、小松清・二宮礼子共訳、白水社、1970.
3. *Ch. F. GOUNOD*、ALBAM de MÉLODIES、全音楽譜出版社、14-31.
4. *SONGS BY CHARLES GOUNOD*、1818-93、HYPERION RECORDS LIM、LONDON、CDA 66801/2.
5. F. Robert、*LA MUSIQUE FRANÇAISE* aux XIX<sup>e</sup>. siècle、p. 15-66、Imp. No.21-708、1970.
6. M. Cooper、*FRENCH MUSIC* from the death of Berlioz to the death of Fauré、p. 9-54、OXFORD UNI.、PRESS、LONDON、1969.
7. WATSON LYLE、*CAMILLE SAINT-SAËNS*、His life and art、GREENWOOD PRESS、1970.

là j'attends et pleureからMimと原調に戻る。なお終結部は天国を暗示させるMi $\flat$  - Lam (IV調)に経過転調したのち、Si $\sharp$ を連結して原調に戻る。

#### 譜例 9



一方歌唱に際しては、テキストの内容が幸せであった過去を表現した第3詩節第4詩句～第4詩節第2詩句以外、深い悲しみであるのでp～ppで歌うこと。

### Ⅲ. おわりに

グノーの歌曲は上記5曲の分析どおり、様式は有節およびロマンス、リズムはバルカロールおよび16分音符のアルペジオ、旋律はフランス伝統の歌である一音節に一音符、和音は主属を中心とした機能と声や近親調への転調はもとより、ナポリの6度などを用いている。しかし彼の歌曲様式の特徴は伝統的な技法を用いるのみでなく、詩節や詩句の意味が継続される場合は節分音などを用い旋律や音楽を途切れさせることなく表現し、さらに内面的な詩の意味に対しては適切な変化音を含む準固有和音、あるいは斬新な和音連結I - III - Iなどを巧みに用い、「ことば」と「音」をより柔軟で豊かに融合した。

すたわち本論でのグノー中期までにおける歌曲作品の分析は、すでに詩の言葉や内容に音楽をより円滑に融合させた。彼はそれまでの伝統的な様式を変容発展させ、詩のもつ表現豊かな色彩や陰影をいかしながら音楽の輪郭を和らげ繊細な作品にまとめた。正にグノーは、詩作品から喚起され、それをよりフランス的な近代歌曲Mélodieに確立した真の創設者である。

詩例 5

第 1 詩 節

De mon coeur une partie  
Vient au loin de s'envoler.  
Et depuis qu'elle est partie  
Rien ne peut me consoler !

私の心の片割れは  
遠く飛んでいってしまった。  
そしてそれ以来  
私を慰められるものは何もない！

Ce qui mettait l'allégresse  
Dans mon âmes et dans mes yeux  
M'a laissé dans la tristesse  
En s'éloignant de ces lieux !

私の心と目に  
よろこびを与えたものは、  
この地を遠ざかって  
私の悲しみのなかへ置き去った！

以下省略

曲の構成はメロディー様式で、前奏句（2小節）、第1部8小節（旋律A、第1詩節）、第2部9小節（旋律B、第2詩節）、第3部（旋律Aの反復、第3詩節、ただし同詩節第4詩句は同主長調へ転調）、第4部12小節（旋律C、第4詩節、同詩節第3詩句は原調に戻る、さらに同第4詩句は反復）、第5節（旋律Aの反復、第1詩節）と終結部8小節である。

第1部は前奏句の主和音 Mim（第3音省略、空虚5度）が弔鐘の音を暗示したのち、保続主音を伴った Fa#dim - Mim - Lam<sup>2</sup> - Fa#dim - Mim - Si（V）上に第1詩節第1詩句を悲しげに力なく歌い始める（譜例8）。

譜例 8



第2部は Sol<sup>2</sup> - Lam<sub>7-5</sub> の途切れるリズム反復上に第2詩節第1・第2詩句を、Sol - Mim<sub>7</sub> - Sol<sup>3</sup>（準固有和音） - Mi<sub>7</sub> - Lam（V調）、Si 上に同第3・第4詩句を歌う。続けて第3部は第1部に戻り第3詩節第1・第2詩句を、同部後半（同第3詩句「幸せを汲んでいた泉は」Où je pouvais le bonheur!）は Si<sub>7</sub> - Mi と一転して明るく繊細な同主長調に（譜例9）、さらに La<sup>1</sup> - Mi - Si<sub>7</sub> - Mi と第4詩節第2詩句まで連結し、同第3詩句「その時まで、私は涙にくれて待とう」Jusques

曲の構成は2部形式で、前奏部7小節、第1部17小節（旋律A、第1詩節、同第4詩句は反復）、接続句2小節、第2部16小節（旋律B、第2詩節、同第5・第6詩句は反復）である。なお2部は3度反復され、終結部は前奏部と4小節を加え用いている。

前奏部は  $\text{Si}\flat - \text{同}^2 - \text{Fa}\sharp - \text{Si}\flat^1 - \text{Dom}\sharp - \text{Fa} - \text{同}_7 - \text{Si}\flat - \text{同}^2 - \text{Mi}\flat - \text{Si}\flat^2 - \text{Mi}\flat^1 - \text{Fa}_7$  上に春を醸しだす明るく軽やかな16分音符のアルペジオ音型が奏される。

第1部旋律Aはa1とa2からなる。a1は  $\text{Si}\flat - \text{同}^1 - \text{Fa}\sharp - \text{同}\sharp - \text{Si}\flat^1 - \text{Dom}_7 - \text{Fa} - \text{Si}\flat$  と  $\text{Mi}\flat - \text{Dom} - \text{Si}\flat^2 - \text{Fa}_7 - \text{Si}\flat$  上に第1詩節第1・第2詩句を（譜例7）、a2は  $\text{Mi}\flat - \text{Do}\sharp$ （準固有和音）-  $\text{Fa}$ （V調）-  $\text{Ré}\sharp - \text{Solm} - \text{Si} - \text{Do}\sharp$  上に同第3・第4詩句を、さらに  $\text{同}_{7+M} - \text{Ré}m - \text{Fa} - \text{Ré}m - \text{Do}_7 - \text{Fa}$  上に同第4詩句（反復）を歌う。接続句は  $\text{Fa} - \text{同}^1 - \text{Solm}\sharp - \text{Do}_7$  と連結する。

#### 譜例7



第2部旋律Bはb1とb2からなる。b1は  $\text{Fa} - \text{同}^3 - \text{Si}\flat^1 - \text{Fa}$  と  $\text{同}^3 - \text{Si}\flat^1 - \text{同}_7 -$ （準固有和音）-  $\text{Mi}\flat^2 - \text{Mi}\flat$ （IV調）と  $\text{Si}\flat\sharp$  上に第2詩節第1・第2詩句を、 $\text{Mi}\flat^2 - \text{Mi}\flat - \text{Si}\flat\sharp$  と  $\text{Mi}\flat^2 - \text{Mi}\flat - \text{Si}\flat\sharp$  上に同第3・第4詩句を、b2は  $\text{Si}\flat - \text{Mi}\flat - \text{Dom}^1 - \text{Fa} - \text{Ré}m^1$  と  $\text{Solm} - \text{Mi}\flat^1 - \text{La}\flat$  上に同第5・第6詩句を、 $\text{同}_{+5} - \text{Fa}^1 - \text{Fa} - \text{同}_7 - \text{Si}\flat - \text{Dom}\sharp - \text{Si}\flat^2 - \text{Fa}_7 - \text{Si}\flat$  上に同第5・第6詩句（反復）を歌う。なお終結部は前奏部を用い主和音のアルペジオ音型を4小節加える。またピアノのリズムは終始軽快な16分音符の同音型が奏される。

一方歌唱に際しては、テキストの内容が春を表しているのであるから、ピアノの軽快な16分音符のアルペジオ音型のリズムに乗って常にいきいきと明瞭な発音で歌うこと。

#### 5. 「うつろな心」 Absence セギュール伯爵 (Conte Anatole Ségur) 詩

1870年に作曲される。曲は53小節、Andante、ホ短調、3/4拍子である。なお作品はミラ嬢 (Marie Mira) に献呈される。

テキストは4詩節を用いている。1詩節は4詩句からなり、1詩句は7音節からなる。脚韻は f m f m の交韻である。

Solm - Rém - La<sup>2</sup> (第3音省略) の反復上に同第5・第6詩句を、Rém<sup>1</sup> - Sib - Fa - Dom - Solm - Fa - Lam<sup>2</sup><sub>5</sub> - Ré - La<sub>7</sub> - Ré'上に第7・第8詩句を切れ目無く歌う。接続句は Ré<sub>7</sub> - Solm と連結する。

第2部旋律Bはb 1とb 2からなる。b 1はSolm - Dom<sup>2</sup>を反復し、保続主音とRé - 同<sub>7</sub>、Solm - Do<sup>1</sup> - Fa - Rém - Mi<sup>b</sup>上に同第9～第11詩句を、b 2はLam<sup>1</sup> - 同<sub>4</sub> (第3音省略) - La<sup>2</sup> (準固有和音) - Ré上に第12詩句を、Solm - Dom<sub>7</sub> - Fa<sub>7</sub> - Ré m<sub>6</sub> - Mi<sup>b</sup><sub>7</sub> - Dom<sub>7</sub> - La<sub>7+4</sub> (第3音省略) - Ré - Solm上に同第11・第12詩句 (反復) を歌う。なお間奏部は前奏部を用い、終結部はSolm - Dom<sup>1</sup> - Ré - Solm<sup>1</sup> - 同<sub>7</sub> - Dom<sup>1</sup> - Ré - Solmと連結する。

一方歌唱に際しては、テキストの内容とピアノのリズムは詩人の生きたルネッサンス期に用いられた楽器リュートを思わせるアルペジオの16分音符音型が終始奏されるので、表現が大げさにならないように常に抑制すること。

#### 4. 「春の歌」 Chanson de Printemps トゥルヌー (Eugène Tourneux) 詩

1860年に作曲される。曲は131小節、Allegretto、変ロ長調、6/8拍子である。なお作品はミショール (Jules Michot) 氏に献呈される。

テキストは6詩節を用いている。1詩節は第1・第3・第5が4詩句からなり、第2・第4・第6が6詩句からなる。1詩句は第1・第3・第5詩節が8音節からなり、第2・第4・第6詩節が6音節からなる。脚韻は第1・第3・第5詩節がf m m fの抱擁韻、第2・第4・第6詩節がm m f f m mの平韻である。

##### 詩例4

Viens, enfant, la terre s'éveille  
Le soleil rit au gazon vert !  
La fleur au calice entr'ouvert  
Reçoit les baisers de l'abeille.

##### 第1詩節

おいで、いとしいひとよ、大地は目覚め  
太陽は緑の芝生で笑っている！  
半ばほころびた花びらは  
蜜蜂の口づけを受ける。

##### 第2詩節

Respirons, cet air pur !  
Enivrons-nous d'azur !  
Là-haut sur la colline  
Viens cueillir l'aubépine !  
La neige des pommiers  
Parfume les sentiers.

吸い込もう、このすがすがしい大気を！  
酔おう、紺碧の空に！  
あの丘の上の高みに  
さんざしの花を摘みにゆこう！  
真白いりんごの木々は  
小径をかぐわしく香らせる。

以下省略

詩例 3

第 1 詩節

Ô ma belle rebelle,  
 Las! que tu m'es cruelle,  
 Ou quand d'un doux souris  
 Larron de mes esprits,  
 Ou quand d'une parole  
 Mignardèlement molle,  
 Ou quand d'un regard d'yeux  
 Fièremment gracieux,  
 Ou quand d'un petit geste  
 Tout divin tout céleste  
 En amoureuse ardeur  
 Tu plonges tout mon coeur.

ああ美しくもつれないひとよ、  
 ああ！ なんときみは冷たいのか、  
 あるときは優しい微笑みで  
 ぼくの心を盗み、  
 あるときは可愛く  
 甘えた言葉で、  
 あるときは高慢に  
 優雅なまなざしで、  
 あるときは天真無垢な  
 さりげない仕草で、  
 きみはぼくの心を  
 恋のとりこにする。

以下省略

曲の構成は 2 部形式で、前奏句 5 小節、第 1 部 18 小節（旋律 A、第 1 詩節第 1 ～第 8 詩句）、接続句 2 小節、第 2 節 14 小節（旋律 B、同詩節第 9 ～第 12 詩句、同第 11・第 12 詩句は反復）である。なお第 1、第 2 部は 3 度反復し、終結部 6 小節は前奏句を変容し用いる。

前奏句は Solm - Dom<sup>1</sup> - Fa - Sib<sup>7</sup> - Mib<sup>7</sup> - Lam<sup>1</sup> - Ré - Solm と経過音を伴って 1 拍ずつ連結する（譜例 6）。

譜例 6



第 1 部旋律 A は a 1、a 2、a 3 と a 4 からなる。a 1 は Solm - Sib<sup>1</sup> - Fa - Sib<sup>7</sup> - Mib<sup>7</sup>、La<sup>1</sup> - Solm - 同<sup>2</sup> 上に第 1 詩節第 1 詩句と同第 2 詩句を、a 2 は Ré - La<sup>2</sup> - Ré<sup>1</sup> - Sol<sup>7</sup>（準固有和音）- Dom（IV 調）- Ré<sup>7+4</sup>（第 3 音省略）- Ré - Solm 上に同第 3・第 4 詩句を、a 3 は

譜例 4



第1部旋律Aはa 1 と a 2 からなる。a 1 は Solm - Mib<sup>1</sup> - Solm 上に第1詩節第1・第2詩句を、a 2 は Solm - Do<sup>2</sup> (準固有和音) - Fa (I / VII) 上に同第3・第4詩句を歌う。第2接続句(旋律b)はナボリの6度(第5音を短6度に置き換える)を用い滑らかに Réb<sup>1</sup> - Fa - Sib<sup>7</sup> - Mib (VI調) へ経過的な転調をする。

第2部は第2詩節を切れ目無く、旋律Bは Solm - Mib<sup>7</sup> (do# = réb) の反復上に同第1・第2詩句を、Solm - Do# dim<sup>1</sup> - Solm - Sib<sup>2</sup> - 同<sup>3</sup> - Ré<sup>2</sup> - La<sup>7</sup> - Ré (準固有長調、V調) - Sim - Ré<sup>2</sup> - Solm 上に同第3詩句(反復)と同第4詩句を歌う。第3接続句は Ré<sup>7</sup> - Solm と原調へ戻る。

第3部旋律Cはc 1、c 2とc 3 からなる。c 1 は主音の保続音に Solm - Ré の反復上に第3詩節第1詩句を、c 2 は Solm - Sol<sup>7</sup> (準固有和音) - Do (IV調) 上に同第2詩句を(譜例5)、Lab<sup>1</sup> - Mib<sup>1</sup> (準固有和音) - Lab<sup>1</sup> 上に同第3詩句を、c 3 は Fa# dim - Sol (準固有和音) - Si 上に同第4詩句を歌う。

譜例 5



第4接続句旋律断片eは Sol - Si - Sol - Si (準固有同主調、I - III) と転調し原調に戻る。終結句は同接続句に2小節を加え準固有和音の同主長調が用いられる。

一方歌唱に際しては、テキストの内容から決して暗く重くならないように、特に第2詩節第3詩句からは順次あるいは半音上行進行を力まないように歌うこと。

3. 「ああ、つれないひと」 Ô Ma Belle Rebelle バイフ詩

1855年に「6つの歌曲」Six mélodies の第2番として作曲される。曲は110小節、Andantino quasi Allegrette、ト短調、2/4拍子である。なお作品はエメ (Aymès) 氏に献呈される。

テキストは3詩節を用いている。1詩節は12詩句からなり、1詩句は6音節からなる。脚韻は ffmm (以下同じ) からなる平韻である。

一方歌唱に際しては、テキストの内容が未知の国への旅の誘いであることから、軽やかで明快な発音で歌うこと。なお同詩はベルリオーズが歌曲集「夏の夜」の第6曲「未知の島」*L'île inconnue*として作曲しているので、比較参考すること。

## 2. 「ヴェネチア」 Venise ミュッセ詩

1842 (57・55?) 年に作曲される。曲は149小節、Allegro ma non troppo、ト短調、6/8拍子である。なお作品はポニアトヴェスキー王子 (le Prince Poniatowski) に献呈される。

テキストは9詩節を用いている。1詩節は4詩句からなり、1詩句は第1～第3が6音節と第4が4音節からなる。脚韻はffmmの平韻である。

### 詩例 2

#### 第1詩節

|                            |               |
|----------------------------|---------------|
| Dans Venise la rouge       | くれないの都ヴェネチアでは |
| Pas un bateau qui bouge,   | 舟ひとつ動かず、      |
| Pas un pêcheur dans l'eau, | 水上にはひとりの漁師も   |
| Pas un falot !             | ひとつの漁り火もない!   |

#### 第2詩節

|                            |             |
|----------------------------|-------------|
| La lune qui s'efface       | うすれゆく月は     |
| Couvre son front qui passe | 過ぎゆくその額を、   |
| D'un nuage étoilé,         | 星曇りで覆う、     |
| Demi voilé !               | 半ばヴェールをかけて。 |

#### 以下省略

曲の構成は3部形式で、前奏句4小節、接続句2小節、第1部9小節（旋律A、第1詩節）、第2接続句4小節（旋律b）、第2部13小節（旋律C、第2詩節）、第3接続句4小節、第3部13小節（旋律D、第3詩節）、第4接続句6小節（旋律断片eを反復）である。なお3部は3度反復され、終結句は第4接続句に主和音2小節を加える。さらに伴奏部は第5～第46小節間にバルカロールのリズムを用いる。

前奏句は、Solm-Sib-solm-Sib-Rém-Si-Solm-Ré-Solm (I-III-I) の連結反復が波の揺れを、高音部の半音を含む16分音符がゴンドラの幻想的に水面を滑る様を暗示させる。第1接続句は主和音 Solm がアルペジオで同上のリズムを刻む（譜例4）。



曲の構成は本歌部（第1詩節は3度反復される）と挿入部（第2・第3・第4詩節が入れ替わる）のロマンス様式で、前奏句4小節、導入部8小節（旋律A、ピアノ部）、第1接続句2小節、第1部12小節（旋律A、第1詩節）、第2接続句5小節、第2部16小節（旋律B、第2詩節）、第3接続句4小節（経過句）である。なお終結句は第2接続句が用いられる。

前奏句は主属音（fa・do、短打音をもつ第1～第4小節）が船出の明快な鐘の音を暗示させる（譜例1）。導入部は保続主音と8分音符の分散和音 Fa—Sib<sup>2</sup>—Fa—Do<sub>7</sub> の反復、旋律Aはa 1（第5～第8小節）とa 2（第8～第12小節、後半はFa—Sol<sup>2</sup>—Do<sub>7</sub>の半終止）からなり波の揺れを暗示させる。

譜例1



譜例2



第1部は旋律a 1、a 2 の変形とbからなる。a 1 はピアノ部の保続主属音を含む主要3和音上に第1詩節第1・第2詩句を（譜例2）、a 2 の変形は同第3・第4詩句を、さらに同第4詩句を反復する語「吹く」の第6音節の音価を拡張強調し2小節をメリスマ唱的ヴォカリーズで、bは同詩句を反復する語「そよ風」を軽やかな装飾音で暗示させる。

第2部はc 1、c 2、dとc 3、c 4、eからなる。第2接続句は旋律bを Fa—Do<sub>7+4</sub>上で反復した後、Rém (VI/Fa) —La<sub>7</sub>—Rém (I/VI調) —Solm<sup>2</sup>—Ré<sub>7</sub>—Solm (I/II調) —Sib—Fa—Sol<sub>7</sub>—Do (I/V調) と経過的な転調上に（譜例3）、第2詩節が旋律c 1（同第1詩句、2小節）、

譜例3



c 2（同第2詩句）、d（同第3詩句、3小節）、c 3（同第4詩句）、c 4（同第5詩句）、e（同第6詩句、5小節）と巧みにゼクエンスされる。第3接続句は同第6詩句第6音節が4小節歌われ、その間ピアノ部は低音のdo（主→属音）上に旋律aの断片をゼクエンスさせV—Iと連結し現調に戻る。最終の歌部は第1詩節第4詩句を用いカデンツ唱でまとめる。

プリュドム (A. S. Prudhomme、1839—1907) とコペ (F. E. J. Coppée、1842—1908) などである。なおグノーは自らも作詩をし、「遥かな国」Loin du pays (1873作)、「遠くのひと」L'absent (1876作)などの歌曲を残している。

本論では、初期から中期 (1839年—70年、ローマ大賞受賞から普仏戦争勃発によりロンドンへ逃れるまで) の作品から、5つの歌曲—1. 「どこへ行きたいの?」(ゴーチエ詩)、2. 「ヴェネチア」(ミュッセ詩)、3. 「ああ、つれないひと」(バイフ詩)、4. 「春の歌」(トゥルノー詩)、5. 「うつろな心」(セギュール伯爵詩) を作品年代順にとりあげ分析し、詩と音楽との融合を論じる。併せて歌唱表現における指導について述べる。

## II. 1839—70年の作品から 5 歌曲の分析

### 1. 「どこへ行きたいの?」Où voulez-vous aller? ゴーチエ詩

1839年に作曲された最初の歌曲である。曲は126小節、Mouvement de Barcarolle、へ長調、6/8 複合拍子である、なお「舟歌」Barcarolleの副題をもつ。

テキストは4詩節が用いられている。1詩節は第1が4詩句、第2～第4が6詩句からなる。1詩句は6音節からなる。脚韻は第1詩節が女性韻(以下f)と男性韻(以下m)の交韻fmfm、第2～第4詩節がfの平韻ffとmとからなる2重韻である。

#### 詩例 1

#### 第1詩節

|                          |               |
|--------------------------|---------------|
| Dites, la jeune belle,   | ねえ、美しい娘さん     |
| Où voulez-vous aller?    | どこへ行きたいの?     |
| La voile ouvre son aile, | 帆は翼をひろげ       |
| La brise va souffler.    | そよ風が吹こうとしている。 |

#### 第2詩節

|                             |              |
|-----------------------------|--------------|
| L'aviron est d'ivoire,      | 櫂は象牙で        |
| Le pavillon de moire,       | 旗は波形織        |
| Le gouvernail d'or fin ;    | 舵は極上純金づくり    |
| J'ai pour lest une orange   | 積荷はたったオレンジ一個 |
| Pour voile une aile d'ange, | 帆には天使の翼をはって  |
| Pour mousse un séraphin.    | 見習い水夫は熾天使。   |

以下省略

# グノーの歌曲

— 5つの作品、1839～70 —

下山 進

Mélodie de Ch. GOUNOD

— cinq pièces, 1839～70 —

By Susumu Shimoyama

## I. はじめに

グノー (Charles GOUNOD、1818-93年) は、1839から90年頃に歌曲を200ほど作曲している。当時の歌曲様式は、有節 (Strophenlied、第1詩節の旋律が以下の詩節に用いられ繰り返される)、ロマンス (romance、本歌 couplet と 挿入部 ritournelle で構成され、感傷的な性格をもつ恋愛詩が用いられる)、マドリガル (madrigal、イタリアを起源とする、叙情短詩が用いられる)、舟歌 (barcarolle、6/8あるいは12/8拍子の波と舟の揺れを表す単調なリズム伴奏型が用いられる)、ベルジュレット (bergerette、田園的な性格をもつ牧歌詩が用いられる) などである。

グノーは上記の歌曲様式以外に、1833年以降フランスで出版されたドイツ・ロマン派の代表的な作曲家シューベルト (F. Schubert、1797-1828) の作品を知り<sup>1</sup>、さらにローマ滞在後ドイツおよびオーストリアを訪ねたさいシューマン (R. Schumann、1810-56) の作品を知り、またメンデルスゾーン (J.L.F. Mendelssohn、1809-47) とともに相知る機会をえて<sup>2</sup>、彼らから通作歌曲様式 (durch komponiertes Lied、詩の各節に新しい異なった旋律がつけられる) の影響を受ける。

一方フランス歌曲の分野では、ベルリオーズ (L. H. Berlioz、1803-69) が作品「アイルランドの9つのメロディー」Op. 2. no. 1-9 (1829作) で「メロディー」mélodieの語を用いた。その後ベルリオーズは歌曲集「夏の夜」作品7-1～6 (1840-41作) の傑作を作曲し、メロディーの語は実質近代フランス歌曲の名称となりそのまま歌曲様式となった<sup>3</sup>。しかしグノーの後輩であるラヴェル (M. Ravel、1875-1938) は、「フランス歌曲 (Mélodie) の真の創立者は、Ch. グノーであった」<sup>4</sup> と述べている。

グノーが歌曲に用いた詩は、16世紀後半の七星詩人派 (Pléiades) - バイフ (J. A. d. Baïf、1522?-60) とロンサル (P. d. Ronsard、1524-85) から、1820年代以降のロマン主義 (roman-tisme) - ラマルチーヌ (Alph. d. Lamartine、1790-1869)、ユゴー (V. Hugo、1802-85) とミュッセ (Alf. d. Musset、1810-57)、および19世紀中期の高踏派 (Parnassians) - ゴーチェ (Th. Gautier、1811-72)